

# 2013年6月23日(日曜日)の東京新聞に ハンガーゼロ自販機の記事が紹介されました。

## パンと水 備蓄の自販機

栃木のメーカー  
大手飲料と開発

大手飲料メーカー「キリンビバレッジ」と、パンの缶詰メーカー「パン・アキモト」（栃木県那須塩原市）が、パンと水の備蓄ボックスを併設した清涼飲料の自動販売機を開発した。大規模災害など緊急時に役立つほか、使われなかったパンを飢餓に苦しむアフリカへ、水は東京電力福島第一原発事故で被災した福島県にそれぞれ送る。

（石井紀代美）

### 「年100台設置目指す」

縦長の備蓄ボックスに 内の缶詰を、水とともに入は、アキモトが製造したパ  
れ替える。回収された缶詰  
の缶詰九十六個と、キリン  
はアフリカへ送り、水は、  
ンのミネラルウォーター九  
安全性の高い水を求めてい  
十六本が入る。緊急時に、  
る福島の高齢者や乳幼児を  
自販機の設置者がカギを開  
つ親へ贈る。

また、清涼飲料の売り上  
東日本大震災で多数の帰  
げ一本につき十円を、非政  
宅困難者が出た東京都では  
府組織（NGO）「日本国  
今年四月、「三日分の水や  
際飢餓対策機構」（大阪府  
食糧の備蓄」の努力義務を  
八尾市）を通じてアフリカ  
事業者に求めた都帰宅困難  
に寄付する。

キリンにとっては、社会  
者対策条例が施行された。  
アキモトの秋元信彦営業本  
貢献を前面に出して自販機  
部長（三三）はこれに触れ「資  
のシェア向上につなげる狙  
金的に余裕がなく、備蓄で  
いもあるとみられる。

自販機は、那須塩原市の  
アキモト本社などに設置  
い」と期待する。  
アキモト本社などに設置  
済み。キリンの広報担当者  
パンの缶詰の賞味期限は  
は「まずは年間百台程度  
約三年。製造後二年をめど  
設置を目指す」としてい  
に、キリンが備蓄ボックス  
る。



設置第1号の自販機の前で、備蓄ボックスからパンの缶詰を取り出す秋元信彦さん＝栃木県那須塩原市で